

日本共産党議員団 先進地視察報告書

1 日付

令和6年1月16日（火）～17日（水）

2 視察先及び視察項目

- (1) 神奈川県座間市…断らない相談支援について
- (2) 東京都三鷹市…A I デマンド交通実証運行について

3 視察者

久野たき

4 視察内容

(1) 断らない相談支援について

ア 取組の経緯

生活困窮者自立支援法施行に伴い同事業を開始した。その際、前任者の「相談のハードルを下げる」という言葉がポイントになっている。職員の研修を繰り返し行い、ワーキンググループに若い職員が参加することでよい結果につながっている。

イ 事業内容、取組状況

(ア) 必須事業

自立相談支援（自立サポート相談）…安定した生活に必要な支援を考える。

就労支援…仕事探しを支援する。

住居確保給付金…仕事でお困りの方の家賃を支援する。

(イ) 任意事業

就労準備支援…働くための支援をする。

一時生活支援…住まいを失った方へシェルターの提供と生活の支援をする。

家計改善支援…お金に関する支援をする。

子どもの学習支援…子どもの学びを支援する。

アウトリーチ支援…相談に来られない方へ支援を届ける。

ひきこもりサポート…ひきこもり状態にある方に居場所を提供。セミナーやサロンの開催。

ウ 効果と今後の課題

(ア) 効果

自立サポート相談では、H27年度の240件からR2年度には1,300件に、そして家計改善支援事業ではH28年度の423件からR3年度には2,468件と相談件数が飛躍的に伸びている。

(イ) 課題

市役所へ来る方は困りごとを抱えている可能性があると考えられる。市役所全体で市民の困りごとに「きづき」、適切な支援へ「つなぐ」ための仕組みづくりが必要と考え、「生活の困りごと」の支援を通じた庁内連携体制の構築を検討している。

エ 所感

「この部署に配属された時、生活保護を止めるのが仕事と思っていた」という係長の言葉が大変印象的であった。

座間市の取組は、その言葉とは反対に、困った市民に寄り添う支援を庁内で連携し、進めることであり、この制度とともに職員のもの見方も変えていくことで、他の職員から「地域福祉課で働きたい！」と言われるまでになったと感じた。中でも、ひきこもりサポート事業は、福祉的なサポートを受けられず、生きづらいつ感じている人がたくさんいる中で、非常に重要なものであると考える。みんなと同じようにできないという特性を持っているのに努力が足りない、仕事ができない人として捉えられる。こういった人が存在することや、ひきこもり＝就労支援だけではないことを知ってもらうため、アーティストを招き、「見えない個性を発見する」という企画を行う予定とのことで、ひきこもりの特質についての理解を広められるよい機会と感じた。

収納課職員が生活困窮者から滞納の相談を受け、解決の糸口がつかめたことで相談者から感謝され、仕事にやりがいを持たせたなどの話もあり、多様性の時代の中で、自治体も変わらなければならないのではと感じた。職員の研修を繰り返し実施していることも参考になると思う。

本市も重層的支援体制を実施していくとのこと。さらに充実したものにしていくために、今後とも市民の声を届けていきたい。

(2) AI デマンド交通実証運行について

ア コミュニティバスについて

(ア) 概要

全6ルートが武蔵野・調布市にまたがって運行している。H10年から運行を開始し、14年の間に1ルートから6ルートにまで増えた。

(イ) 課題

- ・運行距離が長くなる⇒使いにくい
- ・交通利便性の低下

駅に近い地域は便利だが、遠い地域はどうするかが課題となっていた。また、路線バスのバス停まで300メートル以上離れているエリアがある。運行本数が少ない地区もあり、これらの対策も課題となっていた。

イ AI デマンド交通実証運行の概要

AI デマンド交通は、バスのようにあらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのではなく、予約を入れて指定した時間に指定した場所まで運行する交通サービスである。R4年10月から5年9月までを実証期間として予定していたが、現在も延長して運行している。小型車両2台による区域内運行で、乗降ポイントは当初65か所だったが、R5年10月から87か所に拡大している。規定のエリア内の料金は100円、エリア外は300円となっている。運行日は、月曜日から土曜日まで、日祝運休。

ウ 取組効果

利用者は、1日約50人で増加傾向にある。利用者は、高齢者だけでなく、40代の利

用者が最多であるなど、幅広い層が利用している。また、アプリ予約が6割以上で電話予約よりも多い。エリア外料金300円については、高齢者割引、障がい者割引を実施しており、利用率は3割以上になっている。予約での利用という点に対する満足度が73.1%と高い。

今後、期待される効果としては、バス交通の再編で交通結節点の整備、交通不便エリアの住民の利用数の増加や施設利用者の増加、福祉連携事業の増加など。その先にある健康への効果、健康寿命の延伸や生活の質の向上や地域、経済の活性化である。

エ 今後の課題

オープンデータ化による交通サービス同士の連携強化、キャッシュレス決済の推進、AIデマンドシステムの高度化、複数交通モードの接続等による交通DXの推進、また地域ポイントとの連携が課題である。

オ 所感

AIデマンド交通は、本市の地域バスと同様に地域密着型の移動手段である。事前予約が必要なことから、面倒という声があったが、アプリで手軽に予約ができることなどにより、徐々に利用が増えていったとのことである。利用者は高齢者が多いのではとの予想に反し、若い世代の利用もあるとのこと。

三鷹市は都心にも近く、便利な反面、路線バスが使いにくい地域があることから運行をしているとのこと。物価高や所得が増えない中で、公共交通の果たす役割は重要であると感じた。今後の本市の公共交通の充実に活かしていきたい。